

Cover Photo
© TopFoto/amanaimages
© WORLD PHOTO PRESS 2019
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

総力特集

GRUNT

“グラント”がやってきた!



004 **Special Presents!** 新春スペシャルプレゼント
3号連続 計150本!!
ラドウェザー ミリタリーウォッチ
TRITIUM MASTER 5

006 **いまなぜ[GRUNT]か!!**

ベトナムから遠く離れて
“グラントフリープレス”の生みの親
008 **ケン・サムズのこと**

Craig Sams

Author/Publisher of SEED, Executive Chairman of Carbon Gold Ltd

011 **[GRUNT]** ベトナムで戦う男のマガジン
Vol.1, No.1 日本語翻訳版

028 第4回 **サイゴン物語** Saigon Memories
握りに握ったクチトンネル

041 **月刊 THE グリーンベレー**
GREEN BERET
IRAQ 2010 文と写真/DJちゅう

047 **東京マルイフェスティバル**

052 **Militaria Roundup!**
WWIIアメリカ陸軍空挺部隊 Part5

The Equipments of the U.S. Force

058 **[現用米軍装備カタログ]**
みんなの知らないBHD装備特集
NAVY SEALS編 Part1

東京マルイ 次世代電動ガン

069 **Mk18 Mod.1**

●Photo&Text by Takeo Ishii

074 **5.11 TOKYO**
COMBAT Recommend item Vol.2

076 WESTERN ARMS
KIMBER METRO CUSTOM & WEAPON LIGHT MODEL

080 WESTERN ARMS
BERETTA M92FS ELITE CQB

082 **THE LAST of PHANTOM** シリーズ 防人の肖像 VOL.2
日本唯一の戦術偵察機運用部隊
偵察部隊 第501飛行隊

086 ニッポンの力こぶ
平成30年度 第7師団戦車射撃競技会

094 NEW GENERATION STYLER by fujiwara

102 **トイガンニュース**
●タナカ S&W M629PC 3インチVer.3
●タナカ グロック18C 3rd.ジェネ・エボ2

COMBAT FRONT LINE

- 033 リスクコントロール通信
- 034 和歌山県サバイバルゲームフィールド&ショップ紹介
- 036 MH-6 リトルバード・ヘリ、日本で復元?!
- 038 keen Sword 19 平成30年度 日米統合共同演習
- 040 新作映画紹介『MILE22』『バハールの涙』
- 090 シン・サバゲ三等兵 祝! バトスポ4周年サバゲ
- 104 新製品てんこ盛り! COMBAT mono
- 106 サバゲ三等兵APS
- 108 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉徹
- 109 US Shooting Life!
- 110 レアミリタリーテクノロジー
- 111 兵装嗜癖
- 112 ゲームOTT「ジャストコース4」
- 113 ツゲチョリ
- 114 PRESENT
- 124 CIC
- 127 次号予告



毎年11月11日はベテランズデイ。2018年のその日は過ぎ去ったが、脳裏を離れない一人の姿がある。そのベテランは、ワシントンDCにある黒い御影石の前に立って、身じろぎせずに立っていた。顔にはとりたてて、何かをいいたげな表情をのせていたわけではない。ただ短くツバを切ったブーニーハットをマリッコのピンバッジが、取り巻いていた。それらの一つひとつが意味を持たないわけがなかった。

ミリタリースポッター
**黒い御影石の前に立ちつくす
ベトナムベテラン。
彼の髪もヒゲも白い。
ベトナムエイジは
どれほど遠くなったのか。**

One of a Vietnam era veteran stood still in front of "The Wall" on Veterans Day. His face was blank. Contrarily many in-country pin badges of U.S. Marine Corps wrapped around his boonie hat. Were they also speechless? Not at all.

Photo/Gary Coppage

GRUNT

“グラント”がやってきた!

Special Thanks to

Craig Sams

Author/Publisher of SEED, Executive Chairman of Carbon Gold Ltd

Coordinator / Mikako Burks 編集・翻訳 / 伊藤浩子、鈴木健太郎、河村喜代子、コンバットマガジン編集部



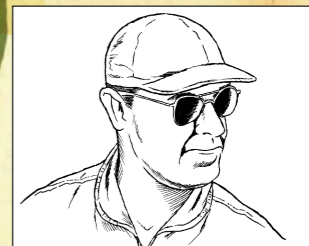
いまなぜ「GRUNT」か!!

1968年2月、10,000部の「グラント」がサイゴンにあるスターズ&ストライプスのスタンドに並んだ。政府の刊行物でもなく、軍のPR誌でもなかった魂の雑誌は、あっという間に完売してしまった! 戦場のロックンロール兵士にとって、おしつけられたものではなく、魂を揺さぶる印刷物だった。

【ナムで戦った兵士のホンネ】

出撃のヘリでは気分を盛り上げるために大音量のハードロックが流れている。サーチアンドDESTROY任務では敵が居ようと居まいとM16を撃ちまくり、手持ちの弾丸300発はあっという間になくなってしまふ。仕上げの爆撃は通常爆弾からナパームまで選び放題だが、あまりの威力に鼓膜が破れてしまう兵士もいる。こんな光景が日常的に繰り返されたベトナム戦争は「最初で最後のロックンロールウォー」となった。30キロもある荷物を背負って敵を探しに出かけるハタチかそこの歩兵は仕掛け罠や待ち伏せに遭うばかりでいつしか不満の声を意味する「グラント」と呼ばれる様になった。グラントの多くは歓迎されているとは言えないこの戦争で死ぬのはバカバカしいと考えていたので、気を紛らわすためにドラッグにふけったりもした。退屈な時は互いに撃ち合ったり無能な上官に対してこっそり手榴弾を投げつけることまでした。アメリカがこうして「ナム」という泥沼に腰まで浸かった時、空軍のある兵士がグラントの正気を保つため兵士の目線に立った「グラントによるグラントのため

の雑誌」を作ることを思い付いた。混乱をきわめた戦争とは対照的に彼がこの雑誌のために決めたルールはただひとつ、それは「この世の全ての生きとし生けるものは何があっても誌内で死んではならない」というシンプルかつヒューマンイズムあふれるもの。全く新しいコンセプトで作られたアングラ誌「グラントフリープレス」に掲載された兵士のコラムやレポートで白人と黒人が殴りあったり、ベトナム人女性とイチャついたりしている様子を見ると彼らが愛国心に満ちた軍人でも赤ん坊殺しでもなく、我々と何ら変わらない様々な感情を持っていたことが分かる。戦争という狂気をユーモアやジョークで何とか切り抜けようとする姿が赤裸々につづられた「グラントフリープレス」はナムに送られた若者がこの戦争をどの様に捉えていたかを知る上でこれ以上ない歴史的資料であり「ロックンロールウォー」の証言者としてもう少し知られても良いだろう。ナムを体験した生の声は過去の戦争や現在イラクやアフガンで戦う「グラント」にも通じる部分があるに違いない。



ケン・サムズと「グラントフリープレス」

グラントフリープレスの創始者ケン・サムズは1964年から70年まで空軍の主任歴史学者としてベトナム戦争に従軍し、対ゲリラ作戦プロジェクトに関わっていた。第2次大戦ではサイパンに駐留した経験を持つ。その彼は、ベトナムで若い兵士たちが、戦う意味を見出せないままドラッグカルチャーやフラワーパワーの影響を受けて破壊的な衝動にかられる姿を目のあたりにする。そして彼は、兵士たちの共感を得つつも一線を越えることなくユーモアにあふれた「グラントフリープレス」を発行することになる。これは彼の秘密の仕事として行なわれ、彼自身この戦争の重苦しさから逃れるのに役立っていたという。創刊号は1968年2月に1万冊が「スターズ&ストライプス」を売るスタンドで即座に売り切れた。第3号では3万冊が売れた。兵士の心情を反映した内容は、捕虜となった解放戦線兵士に見せても笑いがとれるほどの影響力を持った。「グラントフリープレス」の存在をMACV(ベトナム軍事援助司令部)は危惧したが、妨害工作が逆効果になると考えて販売は71年まで続けられ、発行部数は5万部だが広く回し読みされていたことを考慮すると読者数は50万人と推定されている。ベトナム戦争では延べ270万人が従軍し最も多い時で50万人の兵力がいたが、この読者数はアングラ雑誌としては大変な数字である。



第4回
サイゴン物語
 Saigon Memories

Cu Chi Tunnels
 serve as
Headquarters as
well as a baby
delivery hospital.

**掘りに、掘ったクチトンネル！
 レジスタンスの作戦司令部から
 産院まで完備。**

ホーチミン市の北西に位置したクチ県に掘られたトンネル網が戦争パークになり、今ではベトナムの観光資源になっている。実際にトンネル内に入れる。狭くて、暗くて、湿気と臭気が押し寄せて一瞬にしてお遊び感覚は吹き飛んだ。

文/コンバットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff
 写真/今井今朝春、WPPコレクション
 Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection

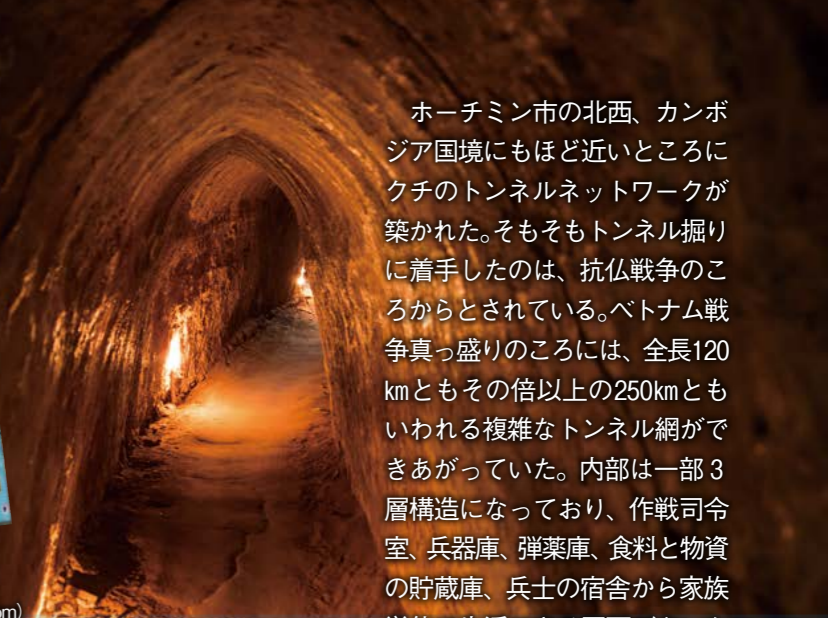
クチトンネル
 Cu Chi Tunnels

住所：Phu Hiep Hamlet, Phu My Hung Commune, Cu Chi, Ho Chi Minh
 電話：(08) 37948830
 ホーチミン市内からクルマで約90分。市内の旅行案内所で、クチトンネルツアーに参加するのがベター。

クチトンネルでは、一部を拡幅して、観光客がトンネル体験できるようにしている。トンネル内での様子は、マネキンを各所において再現している。トンネルについて、敵であるアメリカ軍でさえ賛辞を贈ったのは、トンネル入口をカムフラージュする巧みさだった。



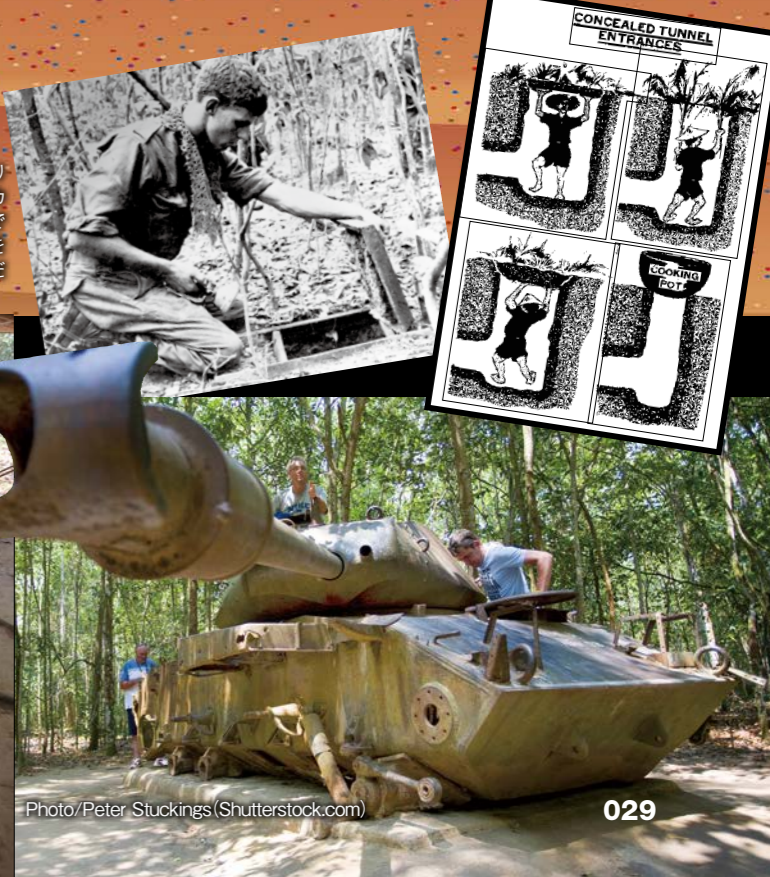
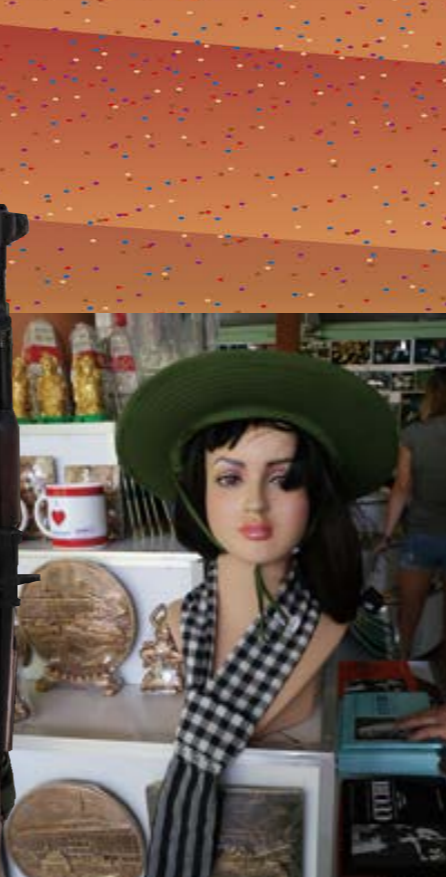
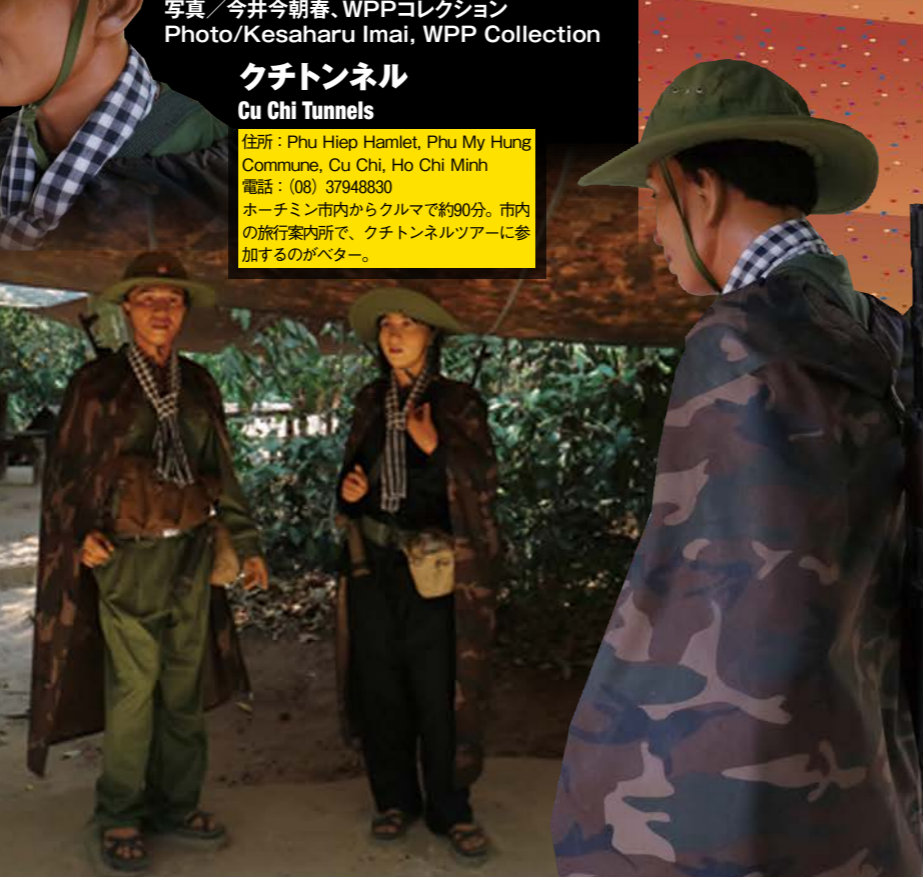
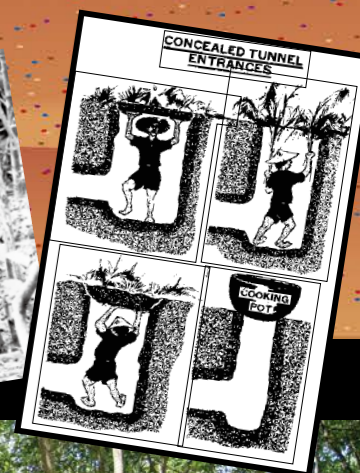
Photo/daphnusia (Shutterstock.com)



ホーチミン市の北西、カンボジア国境にもほど近いところにクチのトンネルネットワークが築かれた。そもそもトンネル掘りに着手したのは、抗仏戦争のころからとされている。ベトナム戦争真っ盛りのころには、全長120kmともその倍以上の250kmともいわれる複雑なトンネル網ができあがっていた。内部は一部3層構造になっており、作戦司令部、兵器庫、弾薬庫、食料と物資の貯蔵庫、兵士の宿舎から家族単位で生活できる区画があった。また傷病兵を手当てする救急処置室と手術室があり、妊婦が産をする産室まで備えていた。



北ベトナムの解放戦線兵士たちは、トンネル掘りのエキスパートだった。加えてトンネルの入口をカムフラージュする巧みさは、敵であるアメリカ軍でさえ舌を巻いた。水中に入口を設けたり、煮炊きをする火が燃えるかまどの下がトンネルへの入口だったり、発想がシュールだった。



Photo/Peter Stuckings (Shutterstock.com)

新製品が
目白押し!

東京マルイ フェスティバル



ベルサール秋葉原 3th

Photo & Text by Taku

東京マルイ

☎03-3605-3312 <http://www.tokyo-marui.co.jp/>



広さは昨年
の2倍になっ
た会場内だ
が多くの
人で溢れ返
っていた。



Mk46 Mod.0

次世代電動ガン

NEW 2019

対象年齢18才以上

東京マルイ初! 分厚な弾薬・SAW (Sound Activated Weapon) の次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」演じて登場!

- 分厚な弾薬が特徴的な次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- SAW (Sound Activated Weapon) の次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- 分厚な弾薬が特徴的な次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- SAW (Sound Activated Weapon) の次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- 分厚な弾薬が特徴的な次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- SAW (Sound Activated Weapon) の次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- 分厚な弾薬が特徴的な次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」
- SAW (Sound Activated Weapon) の次世代電動ガン「Mk46 Mod.0」



何といても今回の目玉は次世代電動ガン時期新製品となる「Mk46 Mod.0」だろう。

11月17日、18日の両日に渡ってベルサール秋葉原にて東京マルイフェスティバルが開催されたのは記憶に新しい。毎年この時期に開催されるこのイベントは、今回で5年目という一つの節目を迎えた。開催前に発表された新製品に加え、会場での初お披露目となるニューモデルも大幅に拡大。例年以上に満足度の高い内容となった。

そんな数ある会場発表のニューモデルの中でもっとも来場者の注目を集めたのが、次世代電動ガンの新製品となる「Mk46 Mod.0」だ。MINIMIのバリエーションの一つで、米軍の

特殊作戦軍 (US SOCOM) が採用するモデルである。

東京マルイとしては初の軽機関銃のモデルアップならではの注目度は相当なものだった。具体的な発売時期は決まっていないが春以降の発売を目指して鋭意開発中との事なので、情報が入り次第、随時お知らせしたい。

その次に注目度の高かったモデルが、ガスブローバックハンドガンのニューモデルとなる「FNX-45 TACTICAL」だろう。FN社の製造するオートマチックハンドガンであり、ミリタリーマニアの間ではかなり注目度の高いモデルだ。

そのほかにも、以前からモックアップの展示されていた「V10 ULTRA COMPACT」の可動モデルの登場や、ハイキャパの最新作となる「Hi-CAPA D.O.R.」、次世代AK47のバリエーションとなる「AKS-47」、「HK45 TACTICAL」のブラックモデルに電動ハンドガンの「HK45」とざっと挙げただけでもこれだけ多くの機種が発表されていた。このほかにも、「ソードアート・オンライン オルタナティブ ガンゲイル・オンライン」の最新コラボ「Vorpal Bunny (ヴォーパルバニー)」やバイオハザードとのコラボモデルなども展示さ

れるなど、5周年に相応しいラインナップといえるだろう。

会場では、ニューモデル以外にも、実物の特殊部隊ヘリ、リトルバードやPVに登場したカスタム装甲車展示に加え、お馴染みの体験射撃コーナー、さらにタイトーのトイガンを使用したシューティングゲーム「ガンアリーナ」の体験コーナーなど、大満足の内容だったことは間違いない。

今回のマルイフェスタで紹介されたニューモデルは、年末から春に向けて発売予定とのことなので、今から楽しみだ。

見事に復元されたリトルバードが会場前にドンとお出迎え。こちらではリトルバードに実際に乗って記念撮影をする事も出来た。

Mk46のPVで活躍していた、マルイの新広報車である「TOKYO MARUI PRSV-02」。外装にホンモノの防弾処理が施されている。

トランクルームにはガンラックが内蔵されていて、操作ひとつで好みの電動ガンを取り出せる。



お馴染みの試射レンジも多く来場者が訪れて長蛇の列を形成していた。



タイトーがリリースしたエアソフトガンを使用して実際に画面に向かって撃つという、斬新なシューティングゲームを楽しむ事が出来た。



会場内には軽食コーナーも設けられていて、外に出る事なく食事を楽しめる。



こちらはコーヒーのブース。入場チケットを提示すると1杯無料でサービスされた。



新作お披露目トークショーでは、Mk46 Mod.0の開発経緯などが語られた。



東京マルイ名物広報のデカ島村氏とMTR-16のPVで登場したタクティカルインストラクターの通称「ハリウッド」ことアンソニー・ベック氏もゲストで出演した。



HK45のブラックモデルも2019年に登場!! マットで落ち着いた仕上げが魅力的な1挺だ。



Hi-CAPAシリーズの最新モデルとなる「Hi-CAPA D.O.R.」。マイクロサイトをダイレクトマウント出来るほか、エンジンやメカもリファインされた。



TANカラーが特徴的なタクティカル系のハンドガン。マッチョな雰囲気を全身にまとったブローバックモデルである。



ファン待望のコンパクトオートの最新モデル。M45A1で培ったノウハウが盛り込まれている。

9月のホビーショーで試作品紹介コーナーで展示されていたデトニクスのバリエーションモデル、実は「GGO」との次期コラボモデルとして登場が決まった!!

4インチが好評だったエアコッキングリボルバシリーズのPPCカスタムに6インチ・モデルが新たに加わる。クラシカルなスタイルが美しいモデル。

次世代電動ガンの次期発売モデルであるAKS-47。Mk46のインパクトが強過ぎて印象は薄かったが、こちらも注目のモデルである。

FNX-45 TACTICAL



FNX-45 タクティカル

- 全長:220mm
- 重量:830g
- 装弾数:29+1発
- 価格:価格未定
- 発売時期:未定

スライドからニョッキリと飛び出したバレルにはサイレンサーを装着するためのネジが切られている。装着する際は付属しているマズルプロテクターを取り外して行なう。



スライドはミニダットを装着可能なように一段掘り込まれている。使用しない場合は付属のカバーでフタをすれば気にならない。

今回は特別に試作品の「FNX-45 TACTICAL」をお借りする事が出来たので、スクープとして一足先に紹介させていただきます。

このモデルは、ご存知の通り米軍が行なう次期採用トライアルへの参加を目的にベルギーのFN社が開発したハンドガンだ。米軍が求める要求に応えるべくデザインされたそのフォームは、同社が2003年に発表したFNPを元に全く新しいものになっている。外装式ハンマー、H&K社と同様のセフティとデコッキング両機構を備えたアンビセフティレバーへと改良。さらにバレルは、サイレンサー装着用に延長され、マズル部分にネジ切りが施されるなど、タクティカルモデルに相応しい改良が加えられている。

手にしてみた印象としては、グロック17と比べると一回りほど大きい印象を受けた。これは.45口径と9mmの差からくるものである。45口径の

弾を15発も装填するとなると必然的にこれくらいの大きさになってしまうのは仕方のないところだ。大きいとはいえ、扱いづらさは感じられない。強めのチェッカーリング加工が手にシッカリと喰い込んでガンを保持してくれる。今どきのモデルらしく、セフティレバー、マガジンキャッチボタン、スライドストップは左右どちらの手でも操作可能なようにアンビタイプを採用しているの、左利きでもまったく違和感を感じられない。

試作品のため、まだまだ改良の余地はあるそうだが、現時点でもブローバックはシャープでキレが良く、ガツンという力強いリコイルを味わう事ができる。このままでも十分な気もするが、発売までにさらに改良が進められるとの事なので、いまから楽しみだ。

詳細については、実射可能なモデルが完成したところで改めてレポートしたい。



バックストラップは交換式で2種類のパターンで大きさがそれぞれ大小あるので合計4種類のサイズが付属する。手の大きさに合わせてチョイスできるのはありがたい。



タンカラーで統一されたスライドとフレームに黒いパーツが映える。材質による色の違いも見事に再現されている。

THE LAST of PHANTOM

シリーズ 防人の肖像 VOL.2 日本唯一の戦術偵察機運用部隊 偵察航空隊 第501飛行隊

航空自衛隊唯一の偵察機部隊として活躍する第501飛行隊。日本全土を活動範囲とし、偵察飛行の実施はもちろん、災害発生時にはその能力を活かし、被害状況の撮影や火山活動の民生協力も行なう心強い部隊だ。老朽化に伴い退役するRF-4E及びRF-4EJとの貴重な残りの日々に報道カメラマン横田 徹が密着。現場の隊員たちの熱き思いに迫る!

Photo & Text Toru Yokota

※隊員の所属、階級、年齢は2018年6月の取材時のものです。

「偵空」の誇り

かつて私が取材してきたアフガニスタン、イラク、シリアなどの紛争地で展開する軍隊では敵地の偵察任務は無人機“UAV”によって行なわれていたが、有人機を使って偵察を行なうのが百里基地に配備されている第501飛行隊だ。通称「偵空」と呼ばれるこの部隊では迷彩色に塗装が施され、機首部分または機体下部に搭載された特殊なカメラを装備したRF-4EとRF-4EJで偵察任務を行なっている。そして連絡機としてT-4も配備されている。

第501飛行隊の任務のひとつである強行偵察。敵機や対空兵器が待ち構える敵の陣地に超低空で高速で侵入して写真撮影するという任務は、弾丸や砲弾が飛び交う戦場において丸腰で、望遠レンズではなく広角レンズで可能な限り被写体に近づき撮影をする我々報

道カメラマンと似ており、親近感を覚える。第501飛行隊ではデジタル写真や映像ではなく特殊な大判フィルムで撮影し、着陸後、偵察航空隊偵察情報処理隊により現像処理され、判読される。デジタル時代の今、あえてフィルム撮影するのは手焼き写真の高い解像度だという。報道カメラマンで、更にフィルム撮影で育ったカメラマンなら、この部隊に興味を持たないはずがない。早速、パイロットに話を聞いた。

小学生の頃、父親に空港に連れて行ってもらったことがきっかけでパイロットを志したという秋山栄治3佐は航空自衛隊に入隊後、航空学生を経てパイロットになってからF-4だけ乗り続けている筋金入りの“ファントムラ

イダー”だ。「戦闘機に裏表があるとして、戦闘機が表の存在だとしたら偵察機は裏の存在だと思います。敵のレーダーに見つからないように機体を隠す為には山の陰、谷の中を飛行します。特に地表、水面に近い低空を飛行するということは危険度が増しますから注意しながら飛

行しています」偵察機の任務は必ず撮影した写真や情報を持ち帰ること。その為には日々の厳しい訓練が課せられる。「パイロットは意外と臆病な人間が多いです。最悪の場合を想定して入念な準備をします。しかし空を飛んでしまえば開き直って大胆になれるが…」



第501飛行隊

日本唯一の戦術偵察機運用部隊。日本全土を活動範囲とするため、百里基地に所属するが第7航空団ではなく航空総隊の直轄部隊となっている。川中島の戦いの啄木鳥戦法に由来したといわれる部隊マークはウッドベッカー（キツツキ）。



洋上迷彩を施したRF-4Eが訓練を終え百里基地に帰投。ドラッグシュートを開傘させてスピードを減速させる。



飛行機を運用するのはパイロットだけではない。国防への強い想いを持つ多くの隊員の支えがあって、はじめて過酷な任務に臨める。